2	単元名	カタカナ

1　指導目標

片仮名の音と形（文字）を連動させて、正しく読み書きができるようにする。

2　指導内容

（1）片仮名五十音の発音と筆順を覚えさせる。
（2）濁音、半濁音、拗音を覚えさせる。
（3）片仮名を組み合わせた単語を読み書きさせる。

3　指導計画

時間	主な学習内容	指導上の留意点
1	○平仮名五十音表で「あ」「ア」が同音であることを確認する。 ○12 ページを用いて「ア行」「カ行」各文字の発音と筆順を覚える。 「ア」を筆順どおりになぞる。その後、自分で４回練習する。 ○絵カードを見ながら「ア」を用いた単語「アルバム」の発音を指導者の後から復唱させ、文字と意味を覚える。 ○同様の手順で「カ行」まで進む。	・指導者が平仮名の「あ」と片仮名の「ア」を指し示し、発音が同じであることを教える。(「同じ」、「違う」の意味をここまでに教えておく。) ・最初に指導者が筆順を言いながら手本を書き示す。家庭学習用にもプリントをコピーし、複数回練習させる。 ・小学校１年生の国語教科書にある『かたかなのひょう』を利用し、発音、文字、意味を確認しながら語彙を増やすようにする。
2	○前回までに学習した片仮名を行ごとに書かせ、確認する。 ○76 ページから 80 ページを用いて「サ行」から「ン」各文字の発音と筆順を覚える。 「ラ」を筆順どおりになぞる。その後、自分で４回練習する。 ○絵カードを見ながら、「サ」を用いた単語「サラダ」の発音を指導者の後から復唱させ、文字と意味を覚える。 ○同様の手順で「ン」まで進む。	・確認テストをすることで、定着度を確認する。 ・最初に指導者が筆順を言いながら手本を示す。家庭学習用にプリントをコピーし、複数回練習させる。 ・小学校１年生の国語教科書『かたかなのひょう』を利用して、発音、文字、意味を確認し語彙を増やすようにする。

４　指導のポイント

（１）同一の発音で２種類の文字があることを理解させる。児童・生徒にとって片仮名は、文字が平仮名と似ているものがあったり、形が直線的であったりするため、比較的覚えやすい。
　しかし、使用頻度が平仮名に比べて低いため、一度覚えても忘れてしまうことが多い。繰り返し学習する機会を設けることが必要である。
（２）平仮名の学習で使用した『ひらがなのひょう』を使う。
（３）指導者が必ず手本を示し、正しい筆順を基礎段階で習得させることが大切である。
（４）濁音、半濁音、拗音、促音を含んだ例語は、その都度確認をする。
（５）平仮名の指導同様に、絵カードを用意すると理解が深まる。

５　期待される成果等

（１）片仮名を覚えることで、「読むこと」「書くこと」の学習に広がりをもたせることができる。
（２）片仮名に興味をもち、進んでプリントや掲示物を読もうとする意欲が生まれる。

６　補充・発展的な学習課題例

（１）平仮名の学習同様、２行ごとに１０字を学習した翌日に書き取りテストを行うことで、児童・生徒の意識を高め、定着度を確認する。
（２）片仮名の学習の復習や確認テストに「ぐるぐるカタカナ」を利用する。
（３）「絵カードカルタ」と称して、絵カードを使って指導者が名詞を読み上げ、児童・生徒がカードを取る。その単語の音と意味を理解しているか確認する。
（４）「絵カードリング」と称して絵カードをリングで留め、児童・生徒が１枚ずつめくりながら単語を発音したり、ノートに片仮名で書き取ったりして表記の確認を行う。

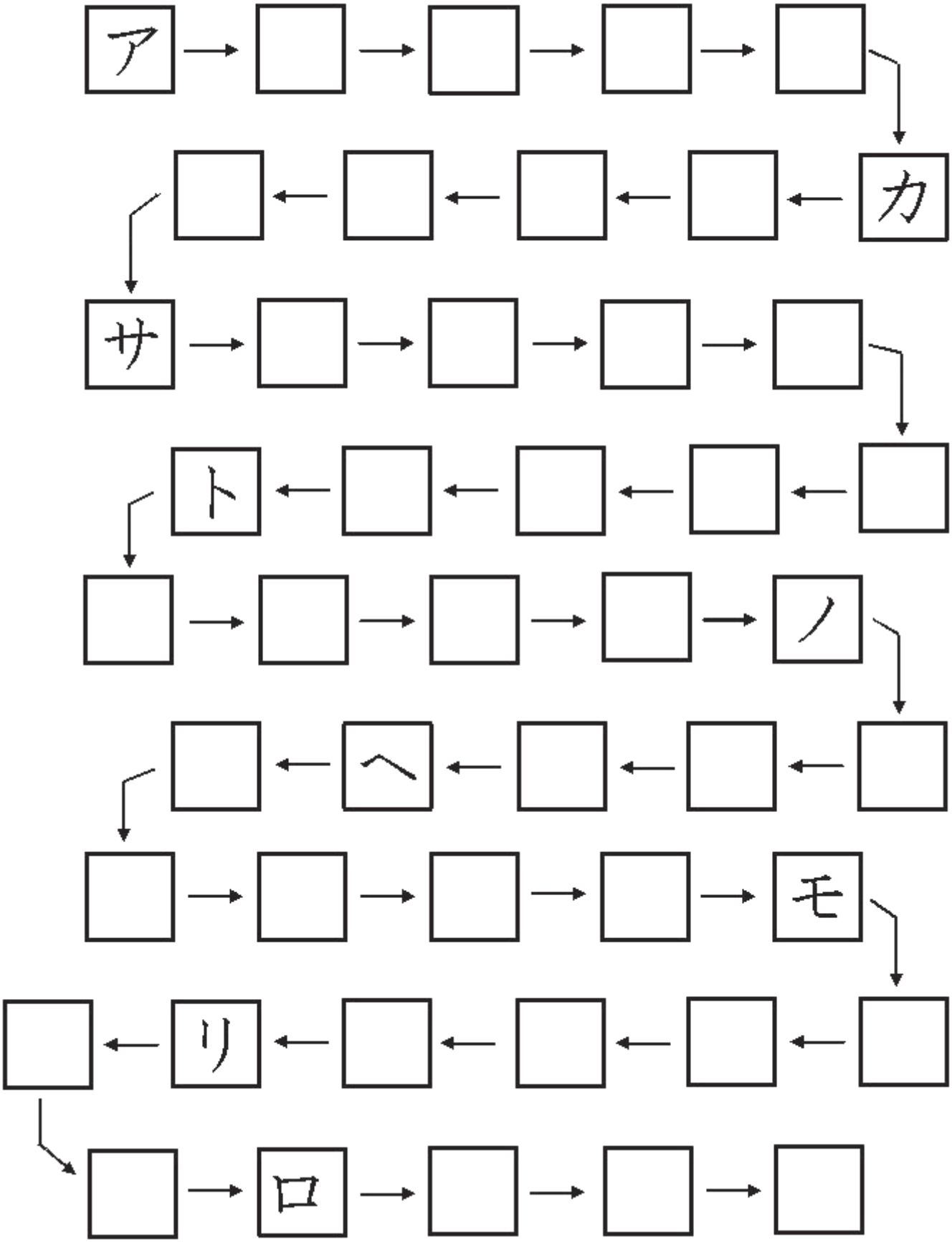
７　実践例

〈促音実践事例〉

促　音　　つまった音を説明する方法として『ジャンピングサウンド』という言葉を用い、手の動作を併用すると分かりやすい。「コップ」では、「コ」と言うときに軽く握った手を机上に置き、促音「ッ」のときにその手を弾ませて上に挙げ、「プ」で手を机上に戻す動作を見せながら発音すると、促音の表す意味を理解しやすくなる。

撥　音　　「ン」については、外国人児童・生徒にとって曖昧な発音になりがちである。そのため口の動きを見せながら正しい発音が身に付くように工夫する。「リンゴ」では、「ン」の発音時に口を閉じて「ンー」という練習をさせ、口を閉じて発する音であることを体感させる。

コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア

ぐるぐるカタカナ

★ 1分以内にできたら合格です。